


2025年3月期（第53期）中間期
決算説明会

2024年11月11日

 **日本パレットプール株式会社**

2025年3月期 中間期決算説明会のポイント

1. 前年同中間期比 減収減益

- ・主力の石油化学樹脂関連企業向けレンタルにおいて、各企業で生産調整や在庫削減が継続され、レンタル需要が低調に推移
- ・その他一般顧客向けレンタルで売上確保を図ったが、当初の計画に届かず
- ・現有パレットの有効活用等により支出の削減に取り組むも売上減をカバーするに至らず、営業利益、経常利益ともに前年同中間期比減益

2. 2025年3月期業績予想の修正

- ・売上高71億46百万円(当初予想比6.6%減)、営業利益5億25百万円(同49.9%減)、経常利益6億15百万円(同46.5%減)に下方修正

3. 売上の拡充に向けた取り組み

- ・営業力強化を目的とした組織改正を実施し、今下半期の収入を挽回
- ・外部企業との協業
- ・レンタル、販売用商品の拡販

目次

I . 中間期決算概要

II . 通期業績予想修正

III . 今後の取り組みについて



目次

I .中間期決算概要

II .通期業績予想修正

III .今後の取り組みについて



2025年3月期_中間期 業績の概要(前年同期比増減)

売上高

35億00百万円
減収(▲2億75百万円)

・レンタル売上
・販売売上

2億34百万円減収
34百万円減収

営業利益

2億06百万円
減益(▲2億18百万円)

・減価償却費
・保管料、運送費

1億11百万円減少
32百万円増加

経常利益

2億73百万円
減益(▲1億93百万円)

・紛失補償金
(営業外収益)

19百万円増加

中間純利益

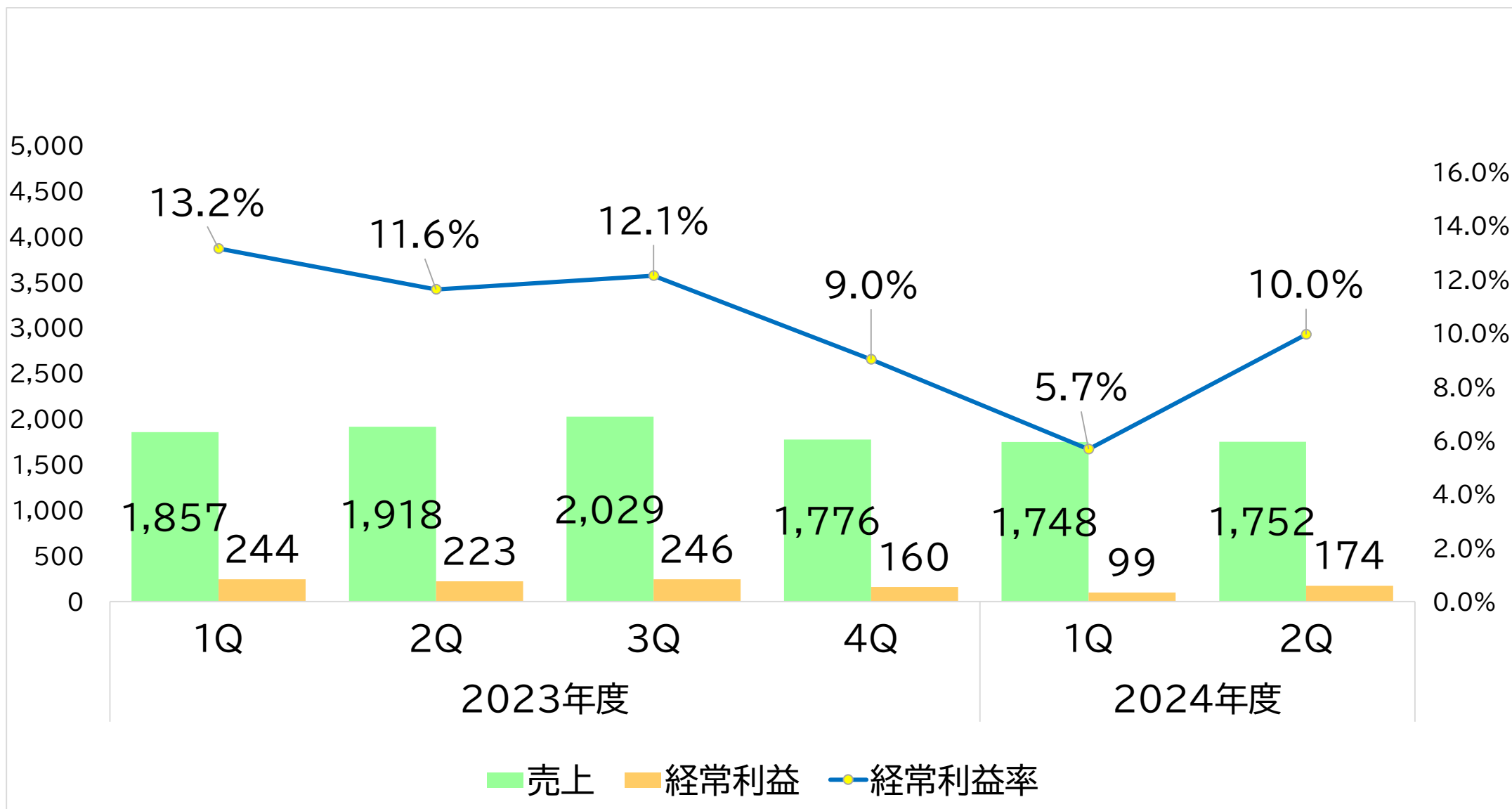
1億80百万円
減益(▲2億35百万円)

・(前期)水島SC売却益
・法人税等減少

1億47百万円減少
1億5百万円

四半期業績の推移

(単位:百万円)



2025年3月期_中間期 売上高の増減内訳 ※レンタル扱:顧客別

(単位:百万円、%)

種 類 別	2025年3月期 _中間期	2024年3月期 _中間期	対前年同期比較		主な増減要因
			増減額	増減率	
レ ン タ ル 売 上 高	3,237	3,471	▲ 234	▲6.7%	
石油化学樹脂関連顧客 (レンタル構成比)	1,873 57.9%	2,041 58.8%	▲ 167	▲8.2%	顧客側の在庫削減施策等により パレットレンタル需要が低迷
その他一般顧客 (レンタル構成比)	1,364 42.1%	1,430 41.2%	▲ 66	▲4.6%	顧客側の業務撤退、生産減等 によりレンタル数量減
販 売 売 上 高	164	199	▲ 34	▲17.6%	割賦・商品販売の売上減
利 用 運 送 収 入	84	92	▲ 7	▲8.7%	パレット輸送等の運送収入減
付 帯 事 業 収 入	14	13	1	7.7%	
合 計	3,500	3,776	▲ 275	▲7.3%	

2025年3月期_中間期 売上高の増減内訳 ※レンタル扱:品目別

(単位:百万円、%)

種 類 別	2025年3月期 _中間期	2024年3月期 _中間期	対前年同期比較	
			増減額	増減率
レ ン タ ル 売 上 高	3,237	3,471	▲ 234	▲6.7%
パレット	2,860	3,070	▲ 210	▲6.7%
その他物流機器	377	401	▲ 25	▲6.0%
販 売 売 上 高	164	199	▲ 34	▲17.6%
割 賦	-	20	▲ 20	-
商 品	109	122	▲ 13	▲10.7%
再 製 品	55	55	▲ 0.6	0.0%
利 用 運 送 収 入	84	92	▲ 7	▲8.7%
付 帯 事 業 収 入	14	13	1	7.7%
合 計	3,500	3,776	▲ 275	▲7.3%

2025年3月期_中間期 営業費用の対前年増減内訳

(単位:百万円)

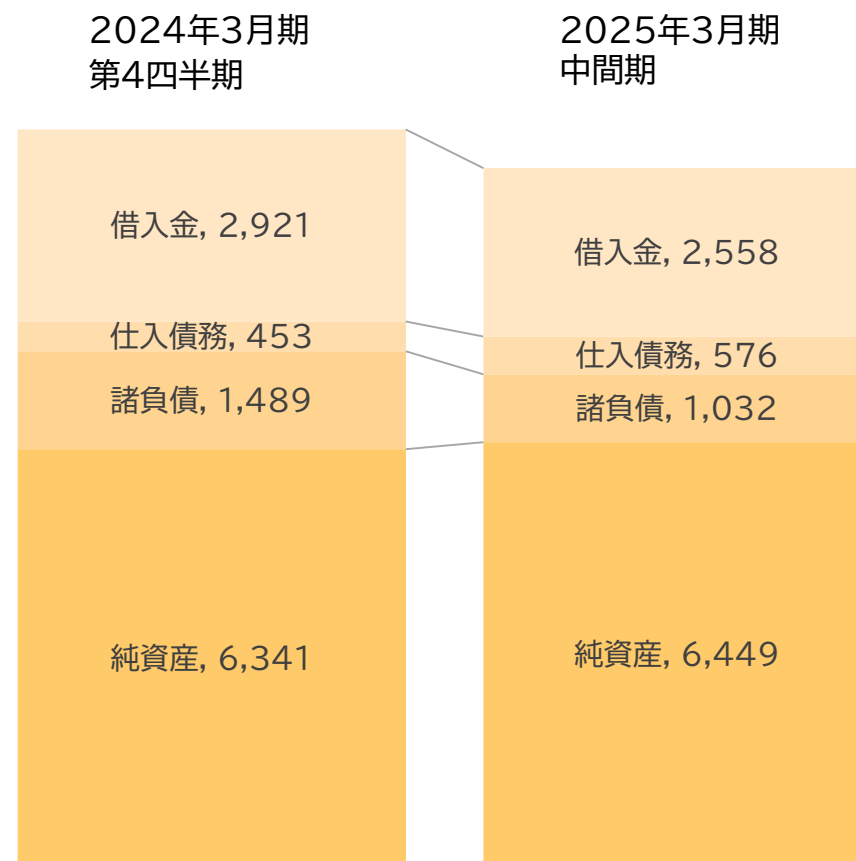
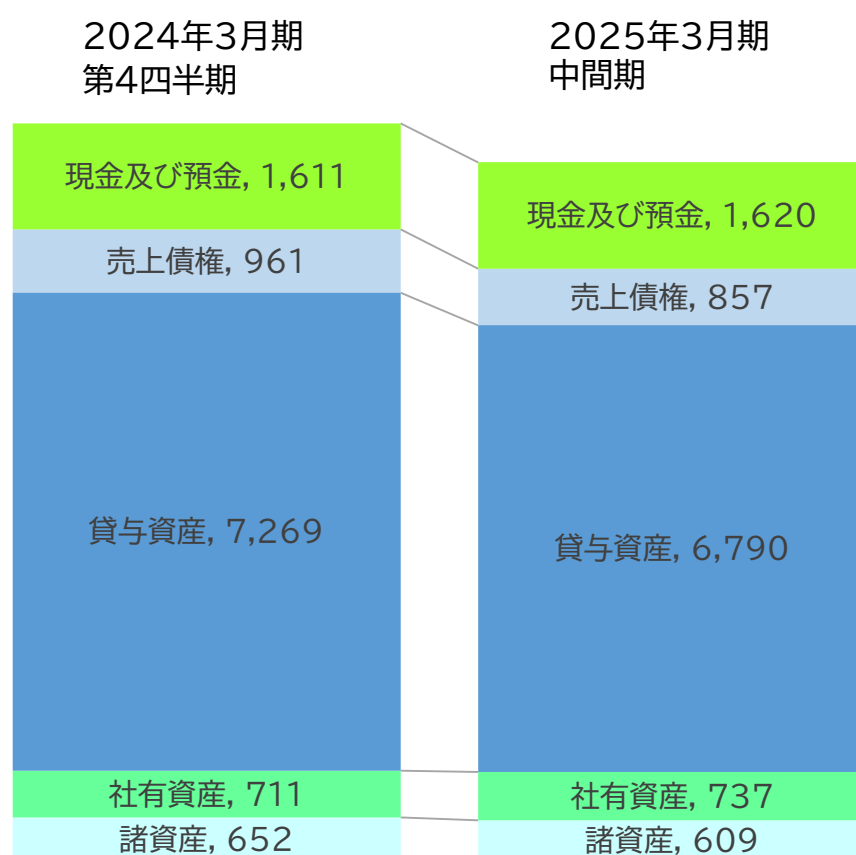
	2025年3月期 _中間期	2024年3月期 _中間期	前年同期比	増減内容
売上原価	2,701	2,817	▲ 116	
減価償却費	1,063	1,174	▲ 111	新造投資抑制による減価償却費減少
保管料	266	247	19	パレット返却増による保管料増
修理費	371	409	▲ 38	パレット新規貸出減に伴う修理枚数減少
運送費	524	511	13	デポ間輸送増による費用増
賃借料	176	185	▲ 9	
販売原価	112	130	▲ 18	商品販売減による原価減
その他	185	158	27	除却損+31、外注費▲7
販売費および一般管理費	591	533	58	
人件費	323	300	23	人員増(社員3名、契約社員2名)、賞与+4
諸経費	268	233	35	国際物流展出展関連+9、消費税確定差額他+9 パソコン購入+6

2025年3月期_中間期 貸借対照表(1)

(単位:百万円)

	2025年中間期	2024年3月期	対前期末比
流動資産	2,544	2,639	▲ 95
現金及び預金	1,620	1,611	9
売上債権	857	961	▲ 104
その他	67	67	0
固定資産	8,071	8,564	▲ 493
貸与資産	6,790	7,269	▲ 479
社用資産	737	711	26
その他	542	582	▲ 40
資産合計	10,615	11,204	▲ 589
流動負債	2,805	3,095	▲ 290
買掛金	576	453	123
借入金	1,603	1,693	▲ 90
その他	626	949	▲ 323
固定負債	1,361	1,766	▲ 405
長期借入金	954	1,228	▲ 274
その他	407	538	▲ 131
純資産	6,449	6,341	108
株主資本	6,346	6,233	113
評価・換算差額等	102	107	▲ 5
負債・純資産合計	10,615	11,204	▲ 589

2025年3月期中間期 貸借対照表(2)



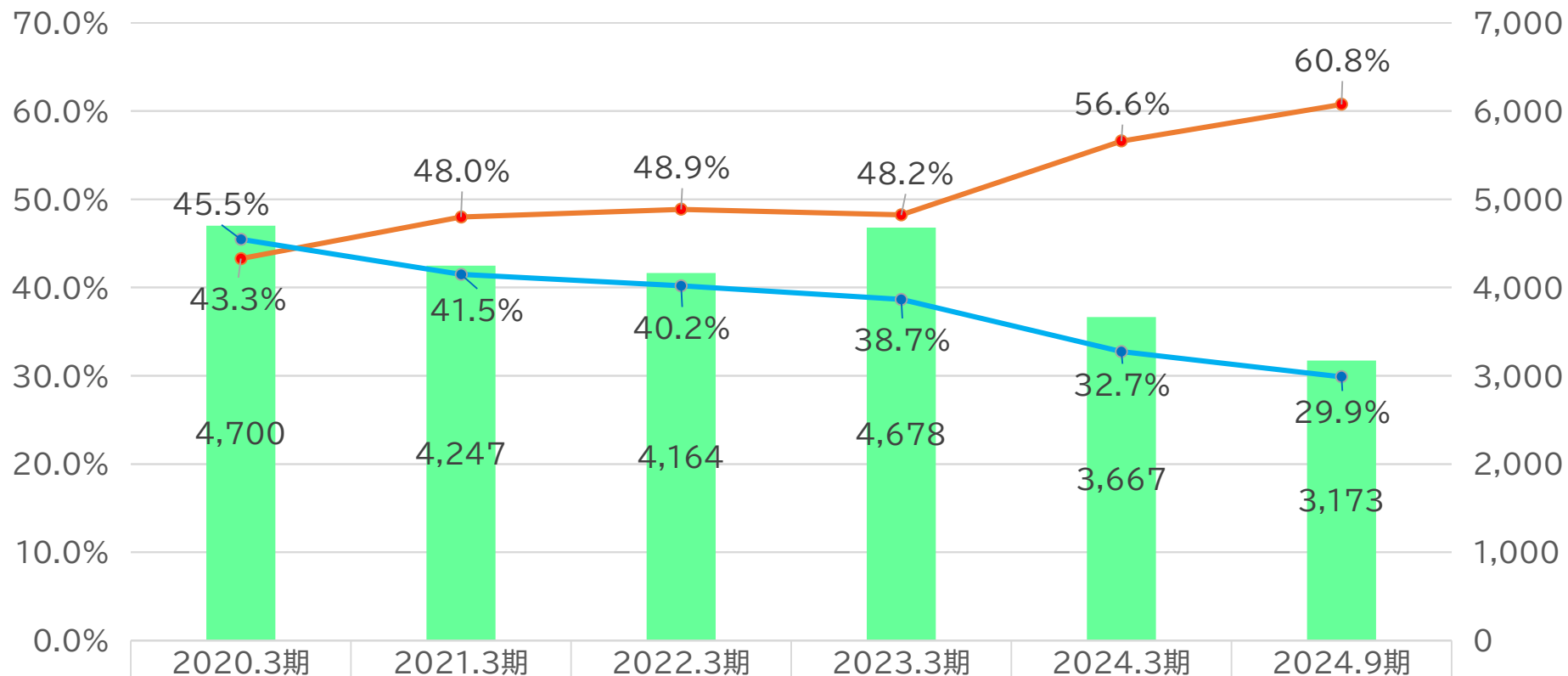
(単位:百万円)

項目	増減金額	増減内容
売上債権	▲ 104	レンタル未収入金▲72、売掛金▲15、受取手形▲17
貸与資産	▲ 479	パレット新造抑制および減価償却の進捗による減
社有資産	26	泉大津デポ改修 +52、減価償却 ▲27
諸資産	▲ 43	ソフトウェア減価償却▲27、投資有価証券評価減▲6、繰延税金資産▲11

項目	増減金額	増減内容
借入金	▲ 363	返済による減(短期▲90、長期▲274)※新規借入なし
仕入債務	123	買掛金増(パレット分)+115
諸負債	▲ 457	未払消費税等▲242、延払売買契約減による未払金▲130
純資産	108	自己資本比率 56.6% ⇒ 60.8%(+4.2%)

有利子負債と自己資本比率の推移

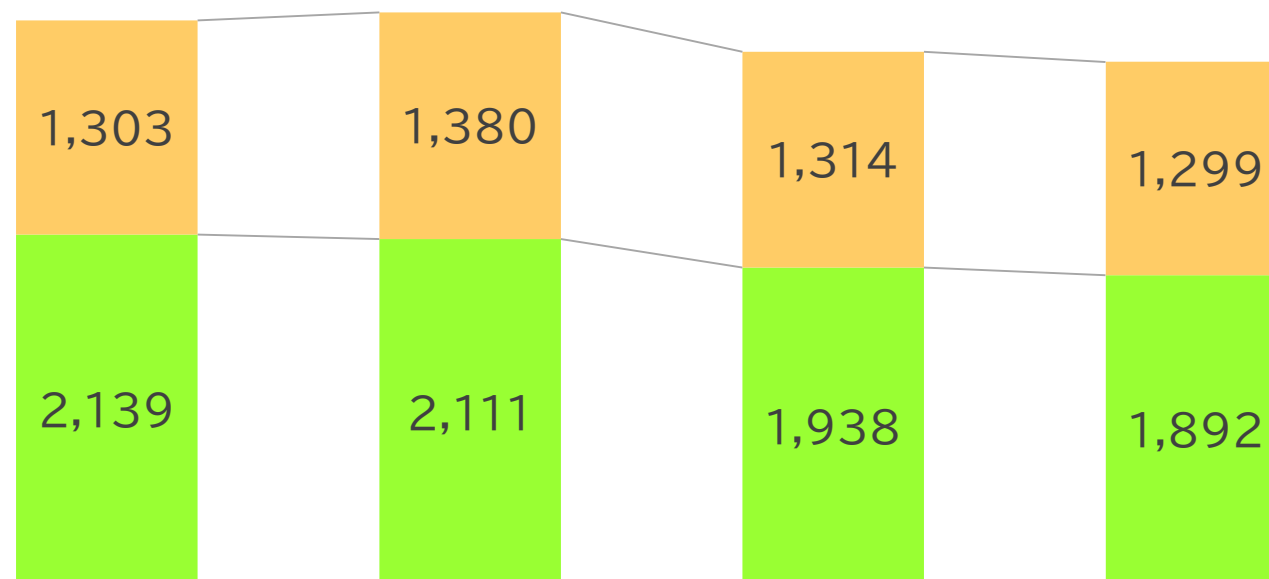
(単位:百万円、%)



	2020.3期	2021.3期	2022.3期	2023.3期	2024.3期	2024.9期
有利子負債	4,700	4,247	4,164	4,678	3,667	3,173
自己資本比率	43.3%	48.0%	48.9%	48.2%	56.6%	60.8%
有利子負債依存度	45.5%	41.5%	40.2%	38.7%	32.7%	29.9%

パレット(木製・プラスチック製)の保有枚数の推移

(単位:千枚)

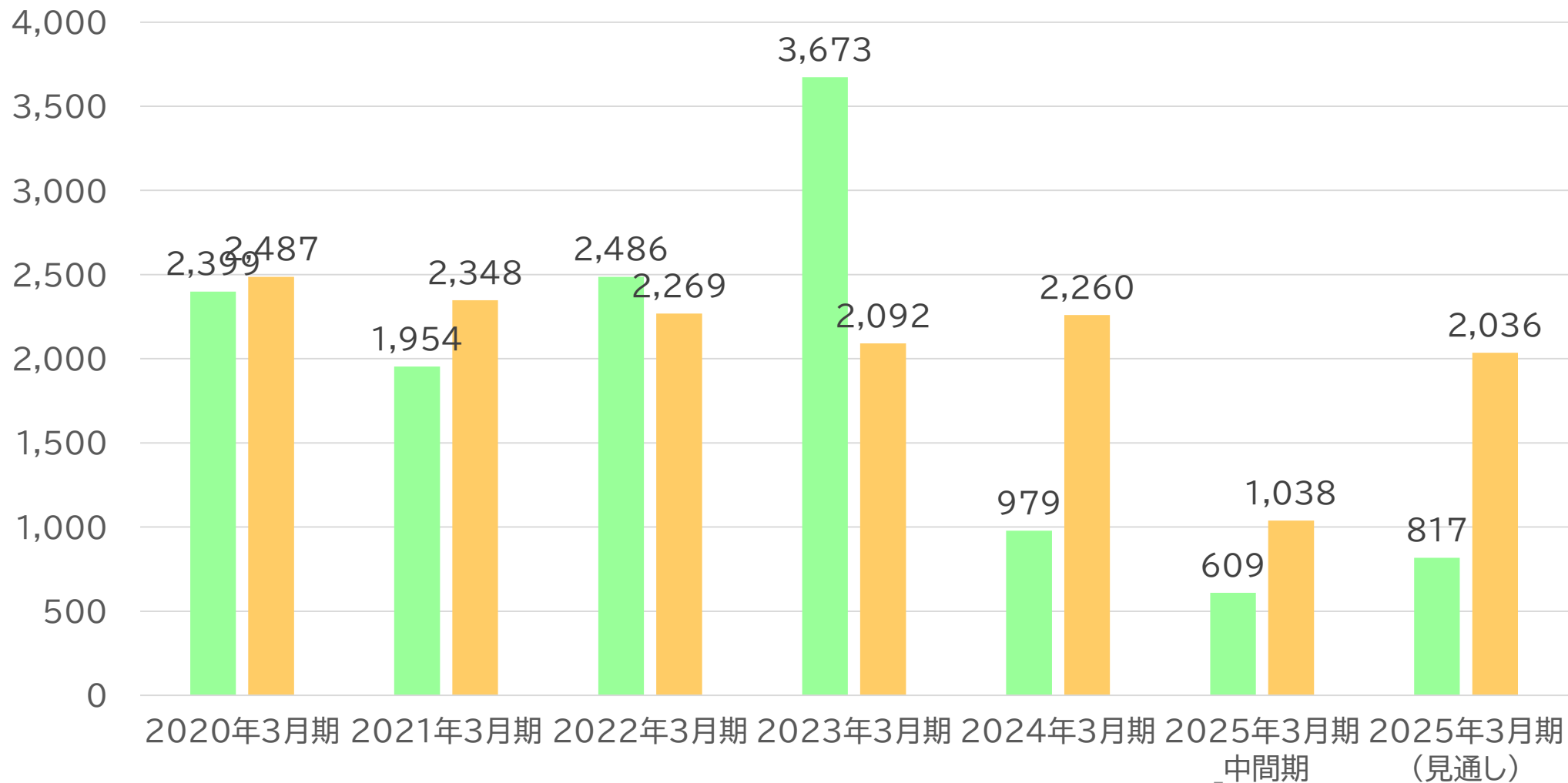


	2022.3期	2023.3期	2024.3期	2025.中間期
■ プラスチック製	1,303	1,380	1,314	1,299
■ 木製	2,139	2,111	1,938	1,892
計	3,442	3,491	3,252	3,191

貸与資産(パレット・機器)の購入実績・減価償却費

(単位:百万円)

■ 設備投資 ■ 減価償却費



2025年3月期 中間期 キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2025年3月期 _中間期	2024年3月期 _中間期	前年同期比	増減要因
営業活動によるキャッシュフロー	1,106	1,614	▲ 508	税引前四半期純利益 ▲341 減価償却費 ▲114
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 487	▲ 1,015	528	有形固定資産の取得による支出 +712 有形固定資産の売却による収入 ▲210
フリーキャッシュフロー	618	598	20	
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 609	▲ 448	▲ 161	借入金による収入 ▲300 借入金の返済による支出 +120
現金及び現金同等物の増減額	8	150	▲ 142	

目次

I. 中間期決算概要

II. 通期業績予想修正

III. 今後の取り組みについて



2025年3月期 業績予想の修正について

(単位:百万円)

	2024.3月期	2025.3月期	2025.3月期	対当初業績予想	
		当初業績予想	修正業績予想	増減額	増減率
売上高	7,582	7,650	7,146	▲ 503	▲6.6%
営業利益	778	1,050	525	▲ 524	▲49.9%
経常利益	874	1,150	615	▲ 534	▲46.5%
当期純利益	527	850	406	▲ 443	▲52.2%
1株当たり当期純利益	313円46銭	505円11銭	241円58銭	—	—

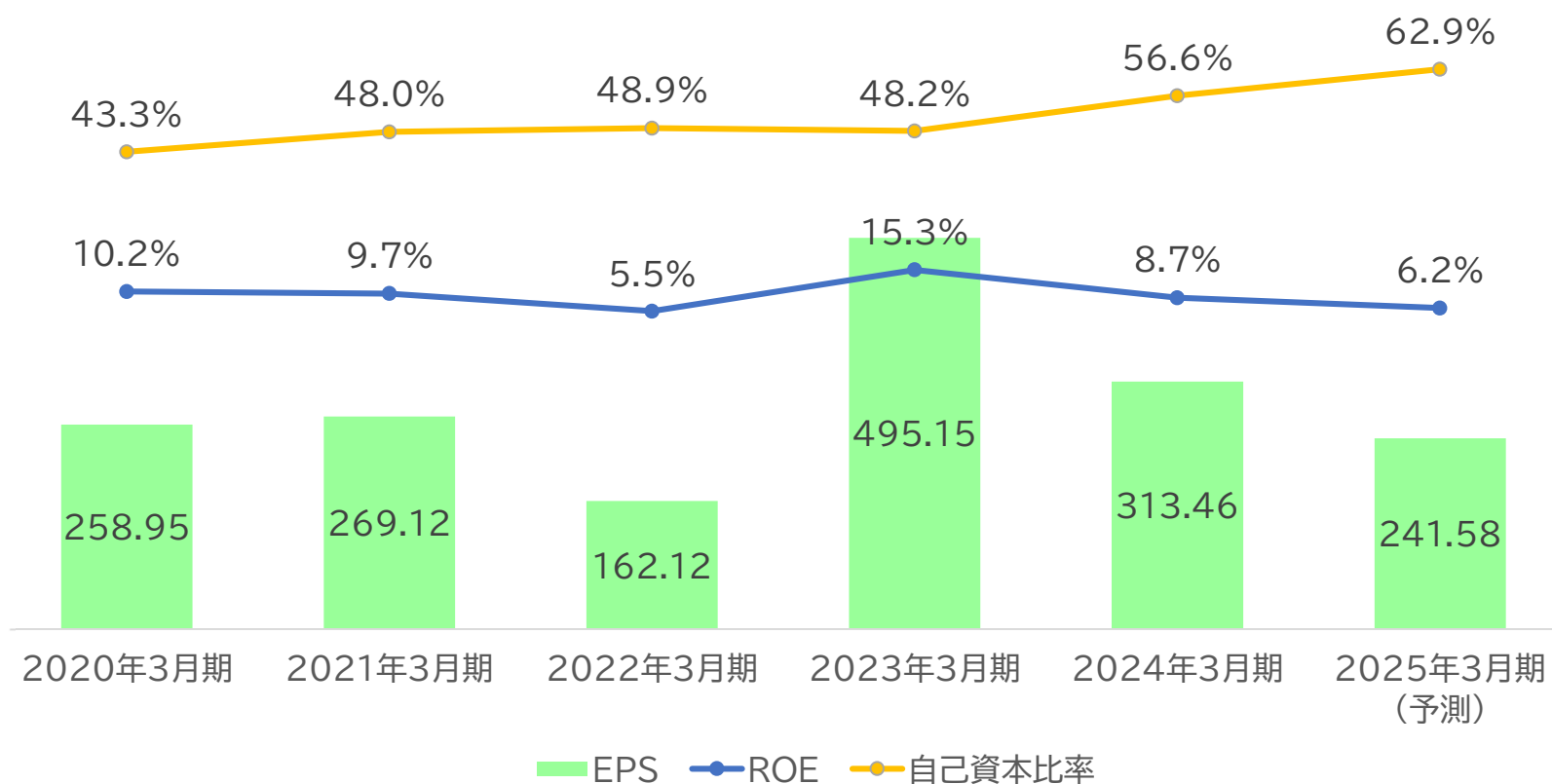
2025年3月期 業績予想の修正について

(単位:百万円)

	修正予想			当初予想			増減		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
レンタル売上高	3,237	3,307	6,544	3,397	3,550	6,948	▲ 160	▲ 242	▲ 403
石油化学樹脂関連顧客	1,873	1,822	3,696	1,814	1,854	3,669	58	▲ 31	26
その他一般顧客	1,364	1,484	2,848	1,583	1,695	3,278	▲ 219	▲ 210	▲ 429
その他扱い	263	338	601	328	373	701	▲ 65	▲ 34	▲ 100
売上高合計	3,500	3,646	7,146	3,726	3,923	7,650	▲ 226	▲ 277	▲ 503
営業利益	206	319	525	439	610	1,050	▲ 233	▲ 291	▲ 524
経常利益	273	341	615	489	660	1,150	▲ 216	▲ 318	▲ 534

- ・前年度より縮小傾向が続く石油化学樹脂関連のレンタル売上は、通期で当初予想並みに留まり、前年実績からは▲3億26百万円(▲8.2%)の大幅減収となる見通しである。
- ・石油化学樹脂関連の落ち込み分をカバーすべく、その他一般顧客向けレンタルの拡販に取り組んだが、顧客の生産減等に伴うレンタル減もあって、上半期は当初計画を大きく下回る結果に終わった。
- ・当下半期において、その他一般顧客の売上拡大に引き続き取り組み、挽回を図っていくが、当初計画まで届かず、採算の悪化による減益が避けられない見込みにつき、業績予想を下方修正することとした。

KPIの推移



	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予測)
ROE (自己資本当期純利益率)	10.2%	9.7%	5.5%	15.3%	8.7%	6.2%
EPS (1株当たり純利益)	258円95銭	269円12銭	162円12銭	495円15銭	313円46銭	241円58銭
自己資本比率	43.3%	48.0%	48.9%	48.2%	56.6%	62.9%

目次

I. 中間期決算概要

II. 通期業績予想修正

III. 今後の取り組みについて



2025年3月期 今後の取り組み

売上の拡充

当下半期の売上改善目標額 58百万円

営業体制の強化

◎10月1日付けで本社営業部門を組織改正し、拠点を東京に移管

- ・営業開発部 ⇒ 全国展開の大口顧客のレンタル・販売の受注
- ・石油化学営業部 ⇒ 石油化学各メーカーとの対応強化

◎複数支店を一つの単位とする「ブロック体制」の再編

- ・東日本、中部、関西、西日本ブロックの4ブロック体制とする
- ・支店間の連携強化のため、各ブロックが管掌する支店分掌を変更

⇒地域ごとの特性、多様なニーズに応じた営業戦略の展開
ブロック長から配下の支店に対する指揮、督励

営業開発部の取り組み施策

◎ロジスティクス企業(利用運送事業者等)との協業強化

日本通運様他、拠点新設や新規事業に伴う新たなレンタル・販売のビジネスチャンスを逃さず獲得する

◎産業軸からのアプローチ

各産業団体(製粉、製糖、肥料、塗料、接着剤等)をターゲットとして、新規取引先獲得へのアプローチを行う

◎商品販売の強化

ネステナーなどの定番商品に加え、本年9月の国際物流総合展の出展で反響の大きかったフォールド・デッキ、アシストスーツの拡販を図る

◎フクLOW事業の再構築

位置情報の精度を向上させた発信機の開発と投入

石油化学営業部の取り組み施策

◎既存取引顧客の深耕

各メーカー様へのアプローチの強化

(例)

- ・メーカーの自社パレットのレンタル運用への切り替え
- ・ドラム缶運搬用パレットのレンタル提案
- ・パレット以外の物流機器のレンタル獲得

◎石油化学業界における新規顧客の開拓

現在の取引先17社以外のメーカーとの取引獲得

2025年3月期 今後の取り組み

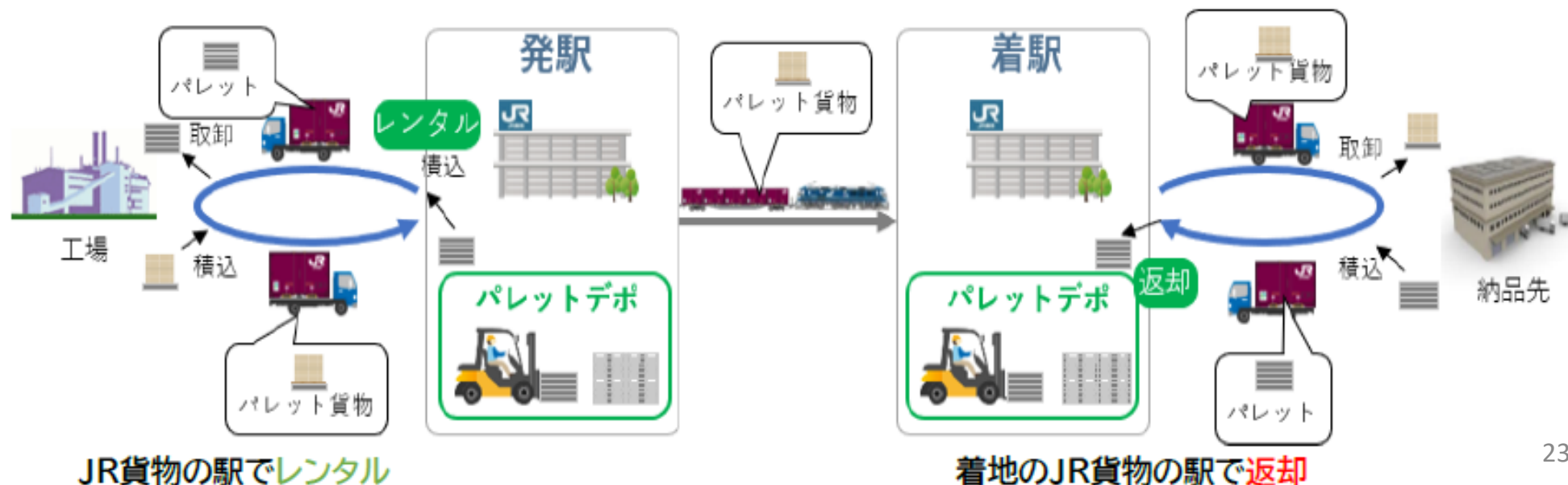
外部企業との協業

◎合同デポの運用

2024年10月度より国土交通省の物流標準化促進事業に参画、日本パレットレンタル株式会社、ユーピーアール株式会社と当社の3社で合同デポ運用、合同運送、合同回収業務に着手

◎駅パレ事業の現状と対応

- ・利用促進に向けて問い合わせが多くコンテナ内の積載効率向上に資するフォールドデッキを隅田川駅、百済駅で試行貸出を行う
- ・鉄道コンテナ用としてトラックボード(養生資材)を新たなレンタル資材として検討中



2025年3月期 今後の取り組み

レンタル・販売用商品の拡販

◎「国際物流総合展2024 Logis-Tech Tokyo 2024」来訪者へのフォローアップ
2024年9月10日～13日に東京ビックサイトで開催された国際物流総合展へ出展
来場者は約8万4千人で当社ブースにも多くご来場頂いた
そのうちご相談、名刺交換頂いたお客様を中心にフォローセールスを実施
特に問い合わせの多かったフォールドデッキ、アシストスーツの拡販



次期中期経営計画の策定

長期ビジョンに掲げた、**2031年度における、売上高100億円以上、経常利益10億円以上の達成**に向けて、2025年4月1日より3年間に亘る、次期中期経営計画に取り組み中である

※長期ビジョン

“NEW CHALLENGES WITH CLIENTS”

～新たな挑戦 お客様とともに～

当社の創立50周年(2022年5月)において、10年後の当社のあるべき姿としての長期ビジョンを掲げた

将来見通しに関する記述についての注意事項

本資料に記載の業績見通しは当社が入手可能な情報に基づき作成されたものです。これらの将来の記述に関しては経済状況の変化や顧客のニーズの変化、他社との競合、法規制の変更等、今後さまざまな要因によって大きく差異が発生する可能性があることをご承知おきください。